

学校改善の実践的研究 －四国教職アライアンス単位互換授業の実践－

教育実践高度化専攻 露口健司

授業の到達目標

授業の到達目標は「①各学問領域におけるウェルビーイングの基礎理論について理解することができる」「②ウェルビーイングの視点を取り入れた教育・経営実践を提案することができる」の2点である。理論やアセスメントデータから、実践を構想するスタイルの授業科目である。現職教員対象の科目である。

授業計画

本授業は、3日間の集中講義であり、1日目と2日目はオンライン、3日目は対面開催である。授業計画は以下の通りである。(1)～(8)は対面、(9)はオンラインである。

- (1) ガイダンス
- (2) ウェルビーイングの教育哲学
- (3) ウェルビーイングの教育経済学
- (4) ウェルビーイングの教育心理学
- (5) ウェルビーイングの児童心理学
- (6) ウェルビーイングの家庭教育論
- (7) ウェルビーイングの教職論
- (8) ウェルビーイングの実践論
- (9) 教育・経営実践報告会 in 鳴門教育大学

授業方法

本学大学生（6名）に鳴門教育大学教職大学院生（3名）及び香川大学教職大学院生（1名）を加えた計10名が受講した。11月19日（土）と11月20日（日）の2日間、Zoomを利用したオンライン授業を実施した。12月17日（土）の発表会は、鳴門教育大学にて全員対面にて実施した。2日間で学んだ内容を生かし、6名の院生が代表者として実践構想を発表した。発表テーマは、「学校ウェルビーイングを実現するICT活用」「ウェルビーイングの視点を取り入れた実践－チーム力と主体性の向上を目指して－」「ウェルビーイングを高める実践から」「教員のウェルビーイング向上をめざして－ポジティブのす

すめ－」「学校は教職員の幸せのためにある－ウェルビーイングの視点で考える学校経営－」であった。

6名の院生のうち、児童生徒のウェルビーイングを対象とした者は1名のみ（ICT活用）であり、5名は教員のウェルビーイングを対象とする報告であった。受講生は管理職候補者あるいは管理職であるため、働き方改革や業務改善に対する関心が強く、それが報告に反映されている。

実践構想の発表後、鳴門教育大学の小坂教授、愛媛大学の高橋葉子特定教授による指導助言を頂いた。

工夫した点

Zoom オンライン学習では、相互の意見交流の機会を多く取り、JamBoardを活用した協議を実施した。また、授業は完全ペーパーレスで実施し、発表資料等はすべてクラウド管理を行った。

昨年度までは、全員の発表後に講評を行っていたが、本年度は発表報告ごとに、簡単なコメントを挿入し、即時のフィードバックを図った。

授業評価

自由記述アンケートでは、「働き方改革の推進において教員のウェルビーイングの視点から構想することができた。効率化の視点しか持ち合わせていなかったため、大いに参考となった。」「ICT活用について、教員の授業改善や情報活用能力の視点から研究を進めていたが、ウェルビーイングの視点を取り入れた研究が必要であることを実感した。また、ICT活用は教員のウェルビーイング向上にも貢献できる可能性に気付いた。」等のコメントが寄せられた。受講生は、ウェルビーイングの視点から実践を捉え直すことで、新たな発見を経験している。